

平成28年度 学校評価

箕面自由学園中学校

1 めざす学校像

「学習」「規律・マナー」「課外活動」の三つがバランスよく調和し、自由で伸び伸びとした校風をそなえ、自主自立の精神旺盛な人間性を育むことができる学校。

- ① 生徒一人ひとりが自らの夢と希望を育み、それを実現するために必要な確かな学力を獲得することのできる学校。
- ② 精神面、運動面ともに激しく大きな成長期にあたる時期にふさわしく、学力に偏重することなく体力・運動能力の向上をも図ることのできる文武両道の学校。
- ③ 生徒が互いに共感と信頼で結ばれ、安全・安心をもって学校生活を送ることのできる「いじめ」を許さない学校。

2 中期的目標

1 学習指導の充実

- (1) 5教科の各学年学習指導計画については、新課程への研究を行い新しい取り組みを構築できるようをめざす。
- (2) 習熟度別クラス制の充実化の面から、英語と数学の3レベル制の指導システムを活かし、生徒一人ひとりの学力の向上を図るようにする。
- (3) 毎日の早朝テストの結果に対するその日の内のフォローアップと、中間・期末考査返却後に約1週間のフォローアップ補習を通して、生徒一人ひとりの基礎学力を徹底して培うようにする。

2 人間力の育成

- (1) 1年時に4級、2年時に3級、3年時に2級という英語検定の各学年の達成目標について、特に3級合格者を現状の60%前半から後半のレベルに引き上げて英語力の4技能の向上をめざすようにする。
- (2) 読む・聴く・話す・書くの英語力4技能の基礎が、英語に馴染みながら身につくように、各技能に対応させて実施していた「Reading マラソン」「Speech コンテスト」「English ノート」「English ランチ」をより適切に充実させ、「聴く」力の育成にと授業での歌やスピーチを聴く活動の工夫を行い、重点的な取り組みを推進する。
- (3) キャリア教育として、働くことの意義や素晴らしさについて、企業でも採用されている「エナジード」を導入し一年間を通じて考え学ぶ。
- (4) 国語科と行事事前指導の学級活動等で実施したディベートの取り組みを、他教科やその他の学級活動へ拡大し、人間力の中核として思考力・判断力・表現力を培い、より豊かなコミュニケーション力の育成を図る。
- (5) 生徒自らが学校生活の主体として、学習面・生活面の目標や目当てを長期・中期・短期で認識し、またその振り返りを通して活動の習慣化を図りながら生活規律の内面化をすすめる目的で「生活・学習手帳」の取組を継続し「マナー」の充実を図る。

3 規律とマナーのある信頼関係の育成

- (1) 年間をとおして「命」と「人権」について考え、話し合う活動を実施する。
- (2) 「あいさつ」「姿勢」「発言・発表の仕方」等、授業中の規律やルールを徹底しながら、いろいろな場面で状況に応じたマナーを実践する。
- (3) 教職員は、生徒の業間を含む学校生活全体を把握し、友だち関係の変化にともなう生徒のメンタル面を理解するようにし、必要に応じて家庭との連携をとりながら教員チームを構成して組織的な指導を適切に行う。

3 自己評価のまとめと学校評価委員会からの意見

自己評価のまとめと分析	学校評価委員会からの意見
<ol style="list-style-type: none">1. 全学年において、英語・数学の習熟度クラスを3レベルで継続したことで、学習理解をより深めることができ、生徒の学習意欲の向上に結びついた。2. 「生活・学習手帳」については、1週間に1度以上、担任が回収して点検し、担任からの評を記入してきた。保護者とも定期的に連絡をとる良い手段となり、有意義な取り組みとなった。3. 4月に実施した「仲間づくり」アンケートの結果、全校生徒のうちの数名に友だち関係での「悩み」がうかがえたので、担任の聞きとり調査を行って実態をつかみ対応して解決を図ることができた。4. 「豊かな心を育む」という課題をかかげ、各学級年間12時間の授業と学園内の臨床心理士による授業1時間、計13時間の指導を行った。5. ディベートの取り組みについては、教科のみならず行事に関連づけて実施することができた。また、ポスターなどを用いての発表を行い、自ら進んで調べ学習をする姿勢を培った。	<ol style="list-style-type: none">1. 学習の深化充実を図るためにも習熟度の指導システムは重要であり、更なる学力の向上を期待する。2. 学習手帳の扱いについては、単に学習時間の増加や生活習慣の向上だけでなく、生徒の微妙な心境の変化などを文面や文字から教師や保護者がキャッチすることができるという一面もあり、多面的な効果が期待される取り組みであり、時間のある限り点検と生徒との対話の充実を期待する。3. 「いじめ」に関する対応については、校務分掌としても組織されている。教員の感性を更に磨きチームとして対応していることは、これからも重要なことだと考える。4. 「心のほっとルーム」と連携をとりながら個々の生徒や保護者の支援にあたること、また、授業面での協力関係も大切にしている。引き続き、見えない声に耳を傾ける努力を願いたい。5. 生徒のディベート力については個々に技能向上を図る取組をし、ディベートをハードルが高い取り組みだと感じる生徒も少なくしていく。普段から小さな発表の経験を積み重ねたり、自分の意見をはっきり言える環境を作っていく必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学 習 指 導 の 充 実	<p>(1) 習熟度別クラス制の充実化</p> <p>(2) 基礎学力の徹底</p> <p>(3) 学習指導計画の作成</p>	<p>(1) 英語・数学の習熟度レベルを、アドバンス・スタンダード・ベーシックの3クラスに編成で維持し、きめ細かい指導を引き続き行う。</p> <p>(1) 朝テスト・定期考査とフォローアップの強化</p> <p>(1) 5教科の学習指導計画の単元一覧表をもとに1時間ごとの指導略案の作成をすすめる。</p>	<p>(1) 1クラスの学級規模の改善</p> <p>(1) フォローアップ受講生徒数の割合</p> <p>(1) 指導略案の作成</p>	<p>(1) 1クラス25数名の学級規模から20数名の学級規模に改善され、より適切で緻密な学習指導が可能となった。定期考査等の学力の変容に肯定的な影響が生まれた。</p> <p>(1) 既習事項の定着については、朝テストで70%、定期考査で40%の正答率を基準としているが、前年度比においてあまり変化はしていないといえる。ただし、日常的な学習習慣の形成の観点からは大変有意義であり、保護者の評価も高い。</p> <p>(1) 習熟度別の指導を実施している英語・数学・国語については、一学年ごとのレベル数に応じて、また科目数に応じて指導略案が必要となることで、英語科については3学年で9種類の指導案の作成を行わねばならず、長期的な計画のもとで考えてきたが、今後の教育改革との関係で見直しを加えながら行う必要もある。</p>
2 人 間 力 の 育 成	<p>(1) 英語検定の実施</p> <p>(2) ディベート力の習得</p> <p>(3) 生活・学習手帳の活用</p> <p>(4) 合唱コンテストの実施</p>	<p>(1) 1年生4級、2年生3級、3年生準2級・2級の受験において、3級の合格率の向上を図る。</p> <p>(1) 3年生国語の単元「高瀬舟」と、2年生修学旅行事前学習「黒島におけるリゾート計画が持ち上がった場合」等、自然環境問題を題材にディベート活動を行う。</p> <p>(1) 全学年で、生活・学習手帳に取り組みを行う。</p> <p>(1) MJG フェスティバル（中学校の文化祭）において、合唱の部を実施。</p>	<p>(1) 3級合格率65%～68%を目標</p> <p>(1) 実施時間数「高瀬舟」 4時間 修学旅行事前学習 6時間</p> <p>(1) 手帳の記録内容</p> <p>(1) 合唱を通じて集団で取り組むことの大切さを知る</p>	<p>(1) 5級と4級については、ほぼ全員合格し、2級、準2級に取得者も数名いたが、3級では目標に届いていない。中間層の合格率を更にあげたい。</p> <p>(1) 2年生の修学旅行では黒島の中学生の協力も得て、現地でのディベートも行えたことの意義は大きいですが、日常の学級活動や国語以外の教科での実施に広がらないので、テーマの種類の検討も含めて学級活動として展開することが必要である。</p> <p>(1) 1週間単位で生活と学習の目標を立て月曜から日曜まで毎日の予定を記入させて、1週間後に振り返って反省をすることがほぼ定着した。</p> <p>(1) クラスで声をかけあい、協力する様子を見て、中学生の心の成長に大きく影響を与えたと感じている。</p> <p>(2) 時間割上では音楽の時間が少なく、音楽に触れる機会が少なかったが、放課後やHRの時間をを用いての合唱練習は、それを補う良い機会となった。</p>

3 規 律 と マ ナー の あ る 信 頼 関 係 の 育 成	(1) 命と人権について考え合う活動	(1) 「命の大切さ」をテーマに、いじめ問題や人権問題に限らず、幅広い視点からテーマを広げ、世界の労働の実態、女子の教育を受ける権利、妊娠・出産について、高齢者や障がい者の問題等、様々な題材から体験活動も含めて、「命の大切さ」について考え合う指導を行う。 マナー向上運動の実施	(1) 実施時間数	(1) 各クラス、HR等の時間を活用して8時間ずつ実施した。
		(2) 「自己理解と他者理解」等、こころのほっとルームの特別授業を行う。	(1) 実施時間数	マナー向上の取組では校長との面談を通して、本来の意義を確認することができた。 (1) 各学年1時間ずつ実施した。
	(2) 授業の規律とマナーの徹底	(1) 全教科の始業から終業まで、一貫した指導方法で、あいさつ(礼)、立ち方、座る姿勢、発言の仕方、言葉づかい等、行儀についての指導を行う。	(1) 注意、指導をうける生徒数	(1) 1週間単位でみて、各学年数名ほどに指導する現状で、ほぼ授業に対する態度は良好である。
		(2) 定期的に登下校指導を実施し、生徒の風紀委員会の課題にして運動化を行う。	(1) 注意、指導の件数	(1) 1週間に2回の指導を実施したが、特に「あいさつ」については、そのつど声の大きさが足りず注意することが多かったといえる。

4 財務状況

別紙参照